

1. 評価結果概要表

評価確定日

平成19年 7月30日

【評価実施概要】

事業所番号	2277101883
法人名	都メ ^テ ィカル有限会社
事業所名	グループホーム 一葉の家
所在地 (電話番号)	浜松市根洗町217番地 電話 053-414-6500
評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年6月28日

【情報提供票より】平成19年 5月 31日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 11月 1日
ユニット数	3 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	27 人
常勤	14 人
非常勤	2 人
常勤換算	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造づくり	平屋建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	200,000 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	26 名	男性	10 名	女性	16 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	10 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 79 歳	最低	47 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	前島内科 鎌田歯科 井上医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山小屋風、平屋建て吹き抜け造りとなっているホームは自然換気であり、日常生活を過ごす入居者にとっては最高の環境である。又、3ユニットが一本の廊下で自由に行き来できる。玄関前の広い敷地の一部に菜園を設け、植え付け・草取り・収穫そして食卓の話題に上げられている。各世代の男女職員が配置されていて、家族からも信頼を得ている館長を中心に、地域に根ざしたホームとしての意気込みは最も期待される場所である。看護職員が配置され系列病院が近くにあり医療面の支援も期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
		前回評価では運営理念等4分野で主な改善課題があったが、運営理念の掲出や玄関周りの改善については、目的に適った改善がされている。また、入居の適否の検討の場を設けること等、運営体制の改善も行われている。
重点項目	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
		前回評価から約2年経過しており、管理者としても初めての経験であったので、原点に立った意識で全員による点検を行った。評価を通じて意識が一つになり、ホームの課題も認識されたので、職員一丸となって改善に向けた取り組みをされるよう期待したい。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
		運営推進会議はまだ実施されていない。早急に開催に向けての取り組みを行い、会議の構成メンバーや会議の内容を検討されたい。今回の自己評価や外部評価結果についても運営会議で公表し、意見交換することを望みたい。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
		気軽に付き合えて、何でも言える関係づくりを心がけて、利用者、家族からの意見、希望、不安を聞きだす努力をしている。介護計画の作成や利用者が自分らしく暮らせるための情報提供に家族の理解と協力を求めている。なお、意見が言いにくいとの利用者の声もあるので、家族会や運営推進会議等を活用した、意見、要望等を言える場を設けるよう検討されたい。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
		自治会に加入しており、祭りにはグループホーム前まで屋台引き回しが来る等、地域との交流が徐々に拡大して来ている。ホームの広い敷地はアイデアによっては様々な活用出来るので、自治会や老人会、子ども会等と連携し、ホームの機能を活用したイベントを提案する等交流を深め、地域密着に根ざしたホームづくりを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム開設時の理念を踏襲し、平成18年5月の現館長就任時からは、「一葉の家心得」を掲げ理念の実現に向けた取り組みをしている。地域密着型サービスを盛り込んだ理念については、現在検討中である。	○	「地域の中でその人らしく暮らし続ける」ことを支えていく地域密着型サービスの役割を理解し、今までの理念を基本としつつ、併せて現状にあったグループホームの理念を策定されるよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をさらに具体化させ、利用者、家族、職員が目指すものを掲げて、館長、職員が一体となって取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、市広報誌等が回覧されてくる。近くの神社に参詣したり祭りではホーム前を屋台が通り、地域の人々と交流する機会があるが、日常交流する機会は散歩時の挨拶ぐらいである。	○	自治会役員や民生委員、老人会、学校等地元の人達との交流の接点に対し、グループホームへの理解を深める働きかけを積極的に行い、その行動の中から地域の人々との交流の機会が生まれることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をホームのレベルアップの機会にしたいとの思いで、自己評価を全員で取り組んだ。前回外部評価の改善指摘に対しても、職員会議で検討し改善に取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は実施されていないが、現在包括支援センターに開催を働きかけている。	○	地域密着型サービスでは、地域と連携し、地域に密着した運営が求められている。運営推進会議はホーム運営に必要な不可欠な機能であるので、早急に関係機関との打ち合わせを進め、開催されることを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	浜松市社会福祉課の職員と必要な指導や情報交換等を行って来た。政令市移行に伴い、新たに区役所担当課長と面会し、今後の連携等について意見交換をした。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者のホームでの暮らしが分かるよう、写真を多用したホームだよりを定期的に発行し、家族に送っている。金銭管理の状況も適切に家族に報告し確認されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時等の機会に意見、要望等どんな事でも言いやすいように努力していて、今まで記録に残すような事項は現れていないが、ホーム内では話しにくいとの一部利用者の声がその家族から寄せられている。	○	気楽に話せる場作り等の取り組みを評価するが、不満、苦情等は言いにくいこともあり、今までの取り組みに加え、家族会や運営推進会議等を活用し、意見を充分引き出せる信頼関係づくりを検討されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去には職員の異動が多発した時期があったが、現在は異動が少なくなり、利用者の表情も明るく会話も多くなる等安定した状態である。異動や離職が少なくなるよう、管理者を中心とした職場の一体感を大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修や部外研修等で質を高めることとしているが、職員の異動その他の事情で、組織的な取り組みは十分でない。職員会議等の場を活用し、必要な情報や知識を習得する他、新人教育はOJT(実地教育)に力点を置いている。	○	職員育成は事業の根幹をなす課題であり、運営者、管理者の責務でもあるので、組織的、計画的な取り組みが求められる。働きながらの学びに加え、グループ研修や外部研修の参加資料を職員みんなに周知できるような体制づくりを検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営母体の法人に所属するグループホームで、地域グループを作り、学習会や意見交換会等の交流を定期的に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人・家族がホームを見学し、内容等の説明を受け充分話し合い納得したうえで入居をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が支援されているという意識を感じないようにさりげなく支援している。一緒に行動することで関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ひとり一人の意志を尊重し、無理強いしないように心がけて支援している。	○	入居者ひとり一人の思いや暮らし方の希望は初期から徐々に変化することがある。常に気配り・目配りで変化を見逃さず、本人の意向をくみ取り、家族からも情報を得、安心して過ごす事のできる信頼関係づくりを期待したい。更なるスキルアップを望みたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人・家族・その他充分に話し合い、本人がより居心地良く過ごしやすいように介護計画を作成している。各ユニット毎に毎週1回のケアカンファレンスを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に1回のモニタリングと3ヶ月に1回の見直しをしている。その他入居者の状況に応じてケアカンファレンスし、見直しの計画をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護職員を配置し家族が付き添えない緊急時の受診の付き添い・その他要望には出来る限り応じるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム利用前からのかかりつけ医での診療、ホームの主治医の受診や往診など納得して医療が受けられるように支援している。日頃から医療機関と情報交換が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向・ホームが対応できる方法等を主治医と話し合い、入居者にできる範囲の努力をしようとしている。まだ具体的な話には至っていない。	○	レベルダウンを想定したホーム側の方針を明確にしておくことは重要である。本人・家族・主治医・ホーム側が充分協議を重ね、全員で方針を共有していただきたい。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常にプライバシーの確保や羞恥心への配慮などに留意して対応されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合や時間を押しつけることなく一人ひとりのペースや時間を大切に「ゆっくり のんびり 楽しく」をめざし、毎日の生活を楽しめるように支援している。訪問当日、居室でパズル(細かいピース)の出来上がりを楽しんでいるという入居者の笑顔がみられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は外注の弁当であるが、盛りつけ、食事形態・器を入居者ひとり一人に合わせて摂取しやすいように工夫して提供されている。週末は入居者の希望でメニュー作りから調理を一緒に楽しんでいる。畑の野菜の収穫が食材となり食卓の話題となる。、片付けの出番も用意され、さりげない食事のサポートがなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間が決められているが本人の希望を取り入れるようにしている。職員が付き添い少人数での入浴である。夜間の入浴は行っていない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の水やり・洗濯干し・洗濯たたみ・草取り・外気浴・散歩など得意分野での出番があり、気分転換が出来るように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム前の広い敷地はベンチが用意され自由に過ごせるようになっている。希望に合わせて散歩・ドライブ・買い物などが支援されている。又、季節に合わせた花見が年間の催しとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠なしの見守り重視となっている。玄関から入居者の外出を感じた時は声かけし、一緒に歩くなどの支援がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練・消化器の使い方の説明は受けている。マニュアルはあるが実際の訓練はない。	○	災害時は地元地域の協力・消防署との連携は最も重要である。運営推進会議で話し合い、協力が得られるよう期待したい。夜間想定も含め定期的な訓練の実施を望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食事形態の変化やとろみを付けるなど工夫して支援している。摂取量が少ない時には補食を提供している。食事は記録されているが水分摂取量は記録されていない。	○	水分摂取量は体調変化時の基礎となる。職員みんなが確認できる記録方法を検討されたい。外注食・週末のお楽しみ希望食も含め、食事の栄養バランスは定期的な栄養士の指導・確認を検討いただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはテーブルの他ソファ・長いす・テレビが設置されていて居心地よく過ごせるように工夫されている。又入居者と一緒に作成した折り紙・季節の花が飾られ、さりげない会話がはずむよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、入居者の長年馴染んだ家具・生活用品が持ち込まれ、その人らしく居心地よく生活できるように配慮されている。		